

東京清掃労働組合

新年号

一組総支部通信

一組総支部
事務局
一組本庁支部内
fax6238-0504
tel6238-0502
e-mail
seisou-ichkumi
@w7.dion.ne.jp

執行委員長
岡沢 徹
副委員長
教宣担当
山下秀男
編集
教宣部長
福田雄一

団結で要求貫徹

迎春 おめでとーざいす



岡沢 徹
一組総支部委員長

年頭にあたり、ひとこと御挨拶申し上げます。
昨年は、引き続き、アウトソーシング反対に明け暮れた年でした。
新たに委託される三工場の運転一係を直営とし、設備の配置を増やしたことは、当局の決意の強さを考えれば大きな成果であり、皆さんに御礼申し上げます。

この一年、私たちは引き続き、委託にどのような問題があるのか住民と当局に示していかなければなりません。
委託による問題点を詳細に記録することは、委託工場に残されたわずかな仲間にとって大きな負担になります。
一組総支部はこれを援助していきますが、直営工場の仲間も有形無形の援助を送って頂ければありがたいと思います。

委託は労働者の低賃金、劣悪な環境が支えています。委託労働者と連帯することは、直営闘争の一環として大切です。
また住民福祉を目的とするはずの自治体は、劣悪な環境の労働者を利用する問題も指摘していかなくてはなりません。

残念ながら、アウトソーシング反対闘争のなかで労使の信頼関係に亀裂が入ってしまいました。原則は守りながら、できる限りの信頼回復を図りたいと思います。
さて、私たちの仕事をめぐっては、サーマルリサイクル、昼休み搬入、年末年始作業、ごみの減量等、問題が山積しています。
住民本位の清掃事業を基本に考えていかなくてはなりません。

アウトソーシング妥結にあたって、当局は事務職員の固有化・採用、設備職員の必要性・採用の方向について明確にしました。
これらの具体化を求めていかななくてはなりません。

また、今までは当たり前であった三級の長期昇格への道が絶たれてしまう等、人事制度をめぐる状況は、今後大きく変えられようとしています。
三級への道を守ることを基本としながらも、具体的にどうするのか、皆さんとともに考え結論を得たいと思います。
本年も、ご協力よろしくお願いいたします。

一組総支部各支部新執行委員



よろしくお願いします
団結してがんばろうー!

第3回 一組総支部定期大会開催

二〇〇七年十二月二十一日、午後四時三十分より一組総支部定期大会が行われ、一組総支部内の全支部が参加し、代議員数三十八名、執行部二十四名参加で質疑応答の後、議案、予算、方針等が確認された。
最初に、岡沢副委員長の開会挨拶と司会進行。議長団に、一組本庁支部の松村代議員を選出した。
挨拶で、岩田一組総支部委員長は、厳しいアウトソーシングの闘いで培った力を活かしていくために全支部が団結して取り組もう、さらに今回の委託反対闘争の成果、取り組み、ビラ配布行動などの紹介、これからの一組総支部の組織構築に向けて頑張ろうと決意を述べた。

大会役員の江東工場支部谷中代議員、墨田工場支部の小野代議員より、大会資格審査報告があり、了承された。次に、箱田書記長より経過報告があり、その後の質疑応答の中では、賃金確定問題や人事制度、身分問題などが取り上げられた。会計監査報告の後、中里会計より決算報告があり、了承され、運動方針案は、山下副委員長より読み上げられた。質問では、東京工場の関連、職種問題、人事問題、アウトソーシングの問題、ビラ配り、区議会の反応、住民との連帯などが取り上げられた。議案の新年度会計予算案も了承された。

次に、一組本庁支部の坂東選挙運営委員長の報告があり、各支部選出の執行委員の状況などが話された。大会決議、スローガン確認が内山書記次長より発表され、参加者全員で唱和された。ここで議長団が解任され、最後に、岩田一組総支部委員長により団結ガンバリで終了した。

活動予定と日程

- | | |
|-----|---------------------------|
| 10日 | 一組総支部執行委員会
東京清掃労働組合旗開き |
| 17日 | 一組総支部常任委員会 |
| 22日 | 一組総支部執行委員会 |
| 24日 | 一組総支部旗開き |
| 31日 | 一組総支部常任委員会 |

主な取り組み
専門委員会交渉、解明要求
文化厚生活動、卓球大会協賛
組織対策、技能主任問題
異動問題、安全衛生の課題
職員互助について、
賃金、人事。各支部役員把握
労働災害、アウトソーシング問題、賃金問題、育児休暇等

運動方針案

一組当局は九月十八日、昨年の大田・杉並に引き続き、今年度、墨田・江戸川・北の三清掃工場のアウトソーシングを提案してきた。
更に既委託工場を含め運動係の三ノ四ではなく全てを委託するという正に清掃工場をほぼ丸投げするに等しい提案であった。これに対し一組総支部は総力を上げて闘い、所属長要請、一組要請や署名活動、座り込みは無数のこと、周辺住民へのビラまきをを行い、各区議員へ我々の訴えを送付した。
東京清掃本部も、「これは単に一組総支部にかけられた攻撃ではない、東京清掃全体にかけられた問題だと位置づけ、署名や区役所前ビラ撒きを行い、また各区長要請行動を区支部の仲間の力を借りながら行った。
二〇〇六年、清掃の完全区移管の年は、東京都派遣職員はその身分を一組の固有職員へ身分切り替えし、二十三区の共同事業としてごみの中間処理部門として清掃一組が位置づけられ、新たな自治体として出発した。しかし記念すべき出発の初年度から私たちは練馬・有明をかわきりとするアウ

トソーシングの不当な洗礼を浴びることになった。今年度の結果は残念ながら新設の三工場は今年度は一ノ四の運動係を残すこと、整備・技術係に人材育成と係強化のための人員や、監督要員を設備管理職員も含め配置することで合意せざるを得ず、当局のアウトソーシング（運動係全委託）の意図を一部押し返すことはできたものの、結局は跳ね返すことができなかった。
来年度以降委託工場が、七工場という事態を向かえる。我々は組合員の必死の熱意と努力や諸先輩の忠告や教えにより、かろうじて大きな致命的事故を発生させず、安全に操業し住民の信頼を勝ち得てきた成果を台無しにしてしまうことを危惧せざるを得ない。
清掃工場の中で「世界一の技術集団を持つている東京」という評価からますますかけ離れて行くのは、残念なことであるが間違いない。
一方、設備管理職員の採用については、国や総務省の厳しい現業不採用方針や各区のほとんど採用がない実績に抗して、設備職員の果たす役割は非常に重要で、設備職員が安心して働け



西川本部委員長

「体制は当局の責務」と当局に認識させ、一定の枠組みを我々の強い要求のもとで勝ち得たのも事実である。そして一自治体に事務職員の採用権がないという不正常な現状に対して事務職員の固有化という実質的な採用権を区長会に認めさせたのは一定の成果と言える。しかし、残念ながら、改革イコラスかノールかの二者択一を迫り、あたかも民営化イコール改革であるかのような幻想を植えつけた小泉改革や、それを引き継いだ安倍・福田内閣のもと郵政や社会保険庁を始めとして「民営化」「イコラス」「改革」という図式で盛んに世論が誘導され報道されている。各区でも図書館や市場化テストの導入や行政改革プランの実施など次々に委託化を推進してきている。各区支部の収集作業も例外ではない。足立、葛飾に見られるように可燃ごみ収集に対して委託化を目論んでいる。

更に現業労働者に対する狙い撃ちは、今年度確定闘争で見られたように、国の指導のもと、民間同業者と比較や、ラスパイレース指数をもとに各自自治体を締め上げ、九%に及ぶ賃下げを行ってきた。これにより、五十歳



岡沢副委員長



岩田一組委員長



箱田書記長

を超える職員の昇給は非常に困難となった。東京清掃労働組合はやむなく妥結したものの、同等の民間対象職種以外も比較対象とするなど全く不当なものと言わざるを得ない。組合員に及ぼす影響を考えると、東京清掃労働組合の団結にひびが入りかねないほどの大改悪となった。清掃工場の運営も例外ではないが、民間では正規雇用職員をできる限り少なくし、アルバイトや派遣労働者を劣悪な条件で採用している。

経団連はホワイトカラーに対して日本版エグゼクティブを導入するとして、時間外労働規制をはずし労働者を守る法律の規制緩和を進めている。そして正規雇用職員すら国際競争力の確保という名目の元、解雇の自由を主張しており、労働者を使い捨てにする時代が始まっている。いわゆる雇用融解が現実のものとなり、貯蓄ゼロ世帯やニューブロー層が形成されネットカフェ難民が社会問題となり、賃金格差が目を見張るほど拡大した。

その上に社会福祉も切り捨てられ、低所得者層が特に困窮化し、子供の学力低下などにも影響を与えている。格差社会が遺伝するといわれるほど、庶民の生活は破壊されてきている。今年七月に行われた、参議院選挙ではそれまでの単に「改革」を叫ぶパフォーマンス選挙から「生活第一」をスローガンとする民主党が第一党となった。今世紀最長の好景気の恩恵が全く受けられず、生活は悪くな

る一方で、痛みのみが降りかかる自民党政権に国民が「ノー」を突きつける画期的な選挙となった。その実感はアウトソーシング反対闘争のピラミッドを行っていく中でも感じられた。委託はコスト低、効率的で公務員は不要という短絡的思考からまず安全や生活を考える住民意識に徐々に変化しつつある。

多分それは「耐震偽装」あたりから「吸い込み口」に金網のないプール、「扉が開いたままだエレベーター」「金属疲労のジェットコースター」「爆発する温泉」など安全神話が崩壊したためだと思われる。これらは全て「いいかげんなメンテナンス」から発生している。

そして更に「崩れる橋」や「あてにならない年金」「賞味期限のずれている食品」などが追い討ちをかけている。その結果、安全や暮らしは政治や行政が保障すべきという世論が形成されつつある。

清掃事業は責任を持って行政が果たし、二十三区民の生活の基盤をしっかりと確保する。それには「直営が一番安心だ」「いいかげんなメンテナンス」ではだめだと社



議長団 松村代議員

会に訴えることが必要である。社会の意識が変わりつつある中で、アウトソーシング反対の闘いは直営がしっかりメンテナンスや安全な運転や運営を行っていけば跳ね返せないことではないと確信する。

一組当局は「時間内組合活動に係る制限について」に提案してきた。これは二〇〇六年末の団体交渉「統一交渉に係る時間内組合活動の見直し」を受けたものであった。

この時間内組合活動に対する攻撃は、政府・自民党が名指しまでして自治労、日教組を敵視し、この意を受けて総務省が組合つぶしを仕掛けたものである。憲法はその二八条において労働者の権利として団結権、団体交渉権を保障している。従って、労働条件の変更等の交渉を行うのは使用者の責務になる。

一方、この交渉が円滑に遂行されるためには組合の民主的運営と組合員の意思決定機関が明確に機能することが必要である。

労働組合の執行機関は上位下達の組織でなく、組合員の意思を反映して、対応をしていく組織で、法的にもそのように位置づけられており、機関会議は必要不可欠なものとなる。

当局が提案をしたものを機関会議もせず執行委員会が独断で運営できる組織ではない。このことからしても機関会議全ての無給化は組合財政を圧迫させ、組合の民主的運営を阻むことにつながり、憲法で保障している団結権の否定につながるもので、不当というより他はない。

しかしながら、清掃本部についても六月から一組総支部としての延期させたものの八月から機関会議の無給化について実施された。だからといって私たちは組合活動をやるわけにはいかない。グローバル化と競争原理の徹底は格差社会、弱肉強食の世界を生み出した。特に公務員に対する攻撃は賃下げのみにとど

まらず、委託化等によってその身分すら失いかねないような、法案が次々に誕生している。これに対抗するのは、各個人では不可能で、労働組合が組織として対応するしかない。一組総支部は六月に臨時大会を開催し、この事態に対する対応方針を決めた。清掃本部には「この不当な攻撃は当局の組合つぶしを本格的に仕掛けてきているものと捉え、一番困難なこの時期に、無給職免を取ることをせず、一部の執行委員に過度な負担をかけてはならない。そして必要な犠牲者救済資金の取り崩しも含めて、対応しなければ組織あるいは個人が消耗し、組織的な危機を迎える可能性がある」として、本部各級機関で一組総支部として、組合組織を守るため、資金の活用などあらゆる手立てをすべき時だと主張した。

一組総支部は勤務上の性格からいっても清掃支部の中で最初から無給職免を取って活動している。しかし保障金額及び保障時間を極めて制限した運用の中で、当局の対応や二組の出現によって必ずしも当初予定していたとおりにはいかず、見直しの必要を生じてきている。

来年度以降アウトソーシング等により、組合員の激減が見込まれる工場が多く出てきている。区派遣職員との連携や組織化、二組対策、文化スポーツ活動の積極的推進など組合員に未来と魅力を感じさせる労働組合を共に作り上げることとする。併せて支部活動を強化し、

地域の活動や争議支援を取り組んでいくと共に、一〇四七名解雇者の納得できる解決を目指し、国労闘争に取組むなど一組総支部は闘っていくこととする。

平成二十年度は、三年で七つの工場を委託するとして、「経営改革プラン」の最後の年度であり、新たに開設する工場がない中で委託は止めるよう、総支部は一組当局に強く要請をしてきた。しかし、不当にも当局は九月十八日に、墨田、江戸川、北工場の運転管理業務を委託すると提案してきた。しかも、これまで一つの運転係を直営で残してきたものを、全ての運転係を委託し、更に、既に委託している四工場の直営運転係も委託するという、極めて認めがたい内容の提案であった。

一組総支部は、翌九月十九日に、各工場支部からの仲間が八十五名結集する中で、一組当局に委託撤回を求める要請行動を行った。今回の委託提案撤回を求める行動は、これまでと同様に、東京清掃全体の取り組みとして、賃金確定闘争と併せ、中心の課題に据えて取り組まれた。

組合員・家族署名、区役所前ビラ配布、工場周辺住民に対するビラ配布、各地連別決起集会、各区区長宛の要請行動等、収集・運搬・埋立部門の仲間の力強い協力、支援があつて、これだけの取り組みが出来たと言える。

十一月六日には、第二波の一組決起集会が、本部西



山下副委員長

平成十九年度には、世田谷工場の開設に伴う新規人員を確保するとして、杉並工場、大田工場の運転係中三係と技術係、業務係の一部業務が委託された。

我々は、平成十八年度の委託修正提案を、止む無く受け入れる際に確認した、委託検証検討委員会の中で、工場の中核部署である運転係を委託することにより、様々な問題が現場で起きており、そのことは、工場の安全で安定な操業を脅かす事態になっていることを、個別、具体的な事例を示しながら明らかにしてきた。委託を巡る状況も変化している。一組は、自らと東京ガスの共同出資による新会社、東京エコサービスを設立した。各区区議会でも様々な議論を呼んだ新会社は、平成十九年度に委託対象工場となった大田工場の

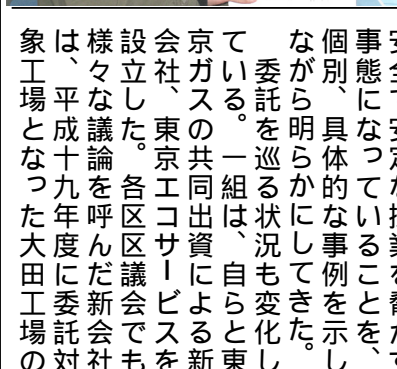
運転管理業務を受託した。東京エコは、四つの工場の業務を受託することで黒字を計上するとしており、これは、「経営計画」の方針とも相俟つて、我々の職場の行く末への圧力要因ともなっている。

平成二十年度は、三年で七つの工場を委託するとして、「経営改革プラン」の最後の年度であり、新たに開設する工場がない中で委託は止めるよう、総支部は一組当局に強く要請をしてきた。しかし、不当にも当局は九月十八日に、墨田、江戸川、北工場の運転管理業務を委託すると提案してきた。しかも、これまで一つの運転係を直営で残してきたものを、全ての運転係を委託し、更に、既に委託している四工場の直営運転係も委託するという、極めて認めがたい内容の提案であった。

一組総支部は、翌九月十九日に、各工場支部からの仲間が八十五名結集する中で、一組当局に委託撤回を求める要請行動を行った。今回の委託提案撤回を求める行動は、これまでと同様に、東京清掃全体の取り組みとして、賃金確定闘争と併せ、中心の課題に据えて取り組まれた。

組合員・家族署名、区役所前ビラ配布、工場周辺住民に対するビラ配布、各地連別決起集会、各区区長宛の要請行動等、収集・運搬・埋立部門の仲間の力強い協力、支援があつて、これだけの取り組みが出来たと言える。

十一月六日には、第二波の一組決起集会が、本部西



坂東選挙運営委員長

川委員長、金澤副委員長も出席する中で開催され、収集・運搬・埋立部門の仲間も結集して一五六名が区政会館の入札室を満杯にし、九一五筆に及ぶ組合員・家族署名を当局に手渡ししながら、平成二十年度の委託提案を撤回するよう、強く要請を行ってきた。

また、今回の委託提案の撤回を求める行動を検討する中で、これまでの取り組みを点検し、新たに我々の考えへの理解を求める取り組みとして、各区区議会議員に対する「清掃工場労働者からの訴え」を郵送した。

一組当局との交渉においては、五回の専門委員会、四回の小委員会を行ってきた。当局の姿勢は頑なで、我々が極めて不当だと主張した運転全係の委託に固執し、専門委員会はしばしば緊迫した展開となった。

第四回専門委員会でも当局は一部提案を修正し、総支部はその内容を一旦持ち帰り検討し、第三回小委員会で正式の修正提案となった。修正された点は以下のとおりである。

(一) 新たに委託する、北、墨田、江戸川工場の運転係一係を、二十年度は直営とする。

(二) 二十年度は、委託管理業務に関わる人員として、新規委託工場（北、墨田、江戸川）に設備管理職員を三名、既委託工場（練馬、有明、杉並、大田）に設備管理職員を二名配置する。

(三) 二十一年度まで、委託七工場の基幹部門を強化するため、技術・技術管理係に技術系職員一名、北、墨田、有明、江戸川の四工場の整備係に技術系職員一



小泉代議員

一組総支部は、翌九月十九日に、各工場支部からの仲間が八十五名結集する中で、一組当局に委託撤回を求める要請行動を行った。今回の委託提案撤回を求める行動は、これまでと同様に、東京清掃全体の取り組みとして、賃金確定闘争と併せ、中心の課題に据えて取り組まれた。

組合員・家族署名、区役所前ビラ配布、工場周辺住民に対するビラ配布、各地連別決起集会、各区区長宛の要請行動等、収集・運搬・埋立部門の仲間の力強い協力、支援があつて、これだけの取り組みが出来たと言える。

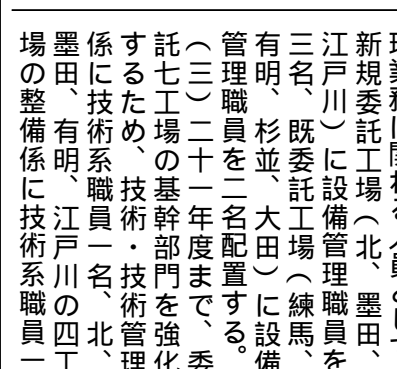
十一月六日には、第二波の一組決起集会が、本部西

川委員長、金澤副委員長も出席する中で開催され、収集・運搬・埋立部門の仲間も結集して一五六名が区政会館の入札室を満杯にし、九一五筆に及ぶ組合員・家族署名を当局に手渡ししながら、平成二十年度の委託提案を撤回するよう、強く要請を行ってきた。

また、今回の委託提案の撤回を求める行動を検討する中で、これまでの取り組みを点検し、新たに我々の考えへの理解を求める取り組みとして、各区区議会議員に対する「清掃工場労働者からの訴え」を郵送した。

一組当局との交渉においては、五回の専門委員会、四回の小委員会を行ってきた。当局の姿勢は頑なで、我々が極めて不当だと主張した運転全係の委託に固執し、専門委員会はしばしば緊迫した展開となった。

第四回専門委員会でも当局は一部提案を修正し、総支部はその内容を一旦持ち帰り検討し、第三回小委員会で正式の修正提案となった。修正された点は以下のとおりである。



小泉代議員

(一) 新たに委託する、北、墨田、江戸川工場の運転係一係を、二十年度は直営とする。

(二) 二十年度は、委託管理業務に関わる人員として、新規委託工場（北、墨田、江戸川）に設備管理職員を三名、既委託工場（練馬、有明、杉並、大田）に設備管理職員を二名配置する。

(三) 二十一年度まで、委託七工場の基幹部門を強化するため、技術・技術管理係に技術系職員一名、北、墨田、有明、江戸川の四工場の整備係に技術系職員一

一組総支部は、翌九月十九日に、各工場支部からの仲間が八十五名結集する中で、一組当局に委託撤回を求める要請行動を行った。今回の委託提案撤回を求める行動は、これまでと同様に、東京清掃全体の取り組みとして、賃金確定闘争と併せ、中心の課題に据えて取り組まれた。

組合員・家族署名、区役所前ビラ配布、工場周辺住民に対するビラ配布、各地連別決起集会、各区区長宛の要請行動等、収集・運搬・埋立部門の仲間の力強い協力、支援があつて、これだけの取り組みが出来たと言える。

十一月六日には、第二波の一組決起集会が、本部西

川委員長、金澤副委員長も出席する中で開催され、収集・運搬・埋立部門の仲間も結集して一五六名が区政会館の入札室を満杯にし、九一五筆に及ぶ組合員・家族署名を当局に手渡ししながら、平成二十年度の委託提案を撤回するよう、強く要請を行ってきた。



の延長を求めてきた。当局は、業績評価の結果が確定した後で苦情処理によって判断の誤りが明らかになったとしても、遡って訂正することはできないという主張である。

したがって、当面は苦情処理の名称にこだわらず、疑問があればいつでも相談できる通年窓口の設置を求めている。

勤勉手当についても、当局的の人事考課結果を反映したものとなる。

今回は係長が対象となる。これに関する提案は、五段階のうち十％を最上位、二十％を上位とし、下位・最下位の抛出一〇〇〇分の一〇〇を合計した全抛出を最上位・上位に二対一の加重率で支給するというものであった。

交渉の結果、一律抛出一〇〇〇〇〇分の五十、最上位・上位の割合をそれぞれ五％・十％とする再提案を引き出した。

業績評価の五段階とは別に勤勉手当の五段階があるため、人事考課制度は複雑となる。

しかし、たとえば昇給で不利な評価を受けた職員が

勤勉手当で有利な取り扱いを受けることを否定するものではない制度となっている。将来は、この利用を目指す。

特勤手当について多くの区で、調整額補償分の日額特勤と従来の日額特勤の併給が問題化するなかで、特勤手当見直し提案が出された。

炉運転等従事の手当日額二五〇円及び、変則勤務手当（土曜日曜勤務手当・年末年始勤務手当）を二〇〇七年一月一日より廃止するとの内容であった。変則勤務手当廃止は、民間では土日や年末年始の営業は普通となっているとの当局認識に基づくものであった。

私たちは、民間の状況や清掃事業の状況は変わっていないと主張した。さらに総支部が反対声明を出し、一、五四〇筆に上る署名をもつての要請行動の結果、炉運転等従事手当は二〇〇七年度現行どおり日額二五〇円支給、二〇〇八年度日額一五〇円、二〇〇九年度より廃止（本則）との経過措置をつける再提案を引き出した。しかし、変則勤務手当のうち土曜日曜勤務手当は二〇〇七年四月一日より廃止、年末年始勤務手当は二〇〇七年四月一日より、一月一日、二日、三日勤務のみ日額一、〇〇〇円を支給することとなった。

二〇〇八年度中は経過期間なので特勤改悪提案を出させてはならず、その後にしても清掃事業が三Ｋ職場である現状を踏まえ、予算要求闘争をはじめとして、改悪を許さない取り組みが求められる。

希望降任制度は、本人の傷病や家族の介護のために必要な期間に限り、本人の申請に基づき、係長のポストを外し、ラインから外す制度として、当局は説明している。周りからの有言無言の圧力で申請することがあるとすれば、これに該当しない。

実際の希望降任制度の利用はかなり少ないと思われる。

工場の安全で安定的な運営

るので、もしもあれば、本人の意思確認をしつかり行い、周りからの助言等があったとすれば強制ではなかったかどうか調査しなくてはならない。

予算要求については、結婚休暇の改善や人間ドックの職免扱い等で進展があった。直営堅持や特勤改悪反対など当局と見解が真つ向から対立する項目は厳しいが、設備採用のように当局も同様の考えを示すものもある。全支部から組合員の声を聞き取り、要求を作っていく。アウトソーシングが進むことにより、清掃工場運営に安全上の支障がでること予想される。

七工場の安全衛生委員会の持ち方も今後、検討していかなくてはならないと思う。廃プラ混合焼却の本格実施が二〇〇八年四月から始まるが、すでに先行してある大田区、多摩川工場の燃焼状況と焼却炉への影響について、早急に検証していく必要がある。その結果によつては、当然にも従来の燃焼方法を改めなくてはならない。

また、委託七工場のうち、四工場は完全に業者が、三工場も三ノ四が業者による燃焼管理になるため、より一層の注意と指導・管理監督が直営に求められることが予想される。

したがって、過度に直営職員に負担が掛からないよう労働条件について清掃一組や所属長に協議を申し入れ、問題点があれば具体的対策を講じていくよう要求していく。

工場運営上の安全等に関する具体的な要求項目については、二〇〇七年九月に予算要求項目を清掃一組に提出しており、一定の回答が示された。前進面もあるが不満足な部分も多い。

主な取り組みは次のとおりである。

一、安全十項目の基本を遵守し、労使確認を前提とする新安全項目の確認を求める。

二、バンカ転落防止等について、各工場の実情を考慮しながらその統一性を図っていく。

三、プラットホーム内の搬入時における安全対策を求める。車両管制や昼休み受付に伴う問題点があれば改善を求め、予算措置が必要であれば要求していく。

四、廃プラ混入によるパンカ火災への対応や燃焼方法の変更については、労使による十分な協議のうえ対策を講じていく。

五、廃プラ混合焼却に伴う工場運営の安全リスク回避の一環として、今まで以上にこみ照合調査の実施を要求していく。

六、ダイオキシン類曝露防止対策要綱等を遵守をし、直営職員、業者関係なく周知徹底を図る。

七、ダイオキシン測定結果を各測定箇所別に開示させる取り組みをする。

八、運転係全委託による工場運営の検証を図るため、委託検討検証委員会の強化と定期的開催を求めるとともに、総支部としてもデーターの蓄積、分析などをして具体的課題の解決を求めている。技術・技能継承のための研修所の設置に向けた取り組みを行う。

十、必要な資格取得の予算確保に努める。

組織対策について



来年度以降、アウトソーシング等により、組合員の激減が見込まれる工場が多く出てきている。そのためには区派遣職員との連携や組織化に積極的に取り組んでいく必要がある。

もちろん東京清掃労働組合への加盟が最も望ましいが、特に六月の臨時大会で確認された区の職員の総支部や支部加入、あるいは派遣職員との連絡会結成など各支部の取り組みだけでなく、総支部としても区派遣と交流し、積極的に区派遣職員の一組総支部への組織化に取り組んでいくこととする。

そして一組の各支部が組合員の減少にかかわらず支部として機能できるようにする。

時間内組合活動に対する当局の締め付けに対し、総支部としては六月臨時大会で確認したことを基礎にして、その運用に対しては見直しを行い、総支部執行委員の活動の幅を広げていくこととする。

また各支部の取り組みについては、創意工夫した取り組みを原則としていくこととするが機関会議等の持ち方を交流しあい、支部強化に役立てていく。

二組の出現は一組総支部の行動や活動に制約をきたし始めてきた。特に一組総支部の江東工場支部では、委員長に対する個人攻撃や総支部内各支部の個人や組織に対して、誹謗・中傷を繰り返してきた。また彼らは自分たちの運動を何ら作るのはなく、東京清掃や一組総支部に対する誹謗・



中傷のみが組合運動となっている。大きな勘違いである。

東京清掃あるいは一組総支部の運動に不満があり、自分たちの運動を作るために分裂を策したのではない。別の労組だと自認するならば、運動で返すべきである。これが原則である。

しかし現実には当局は彼らの存在を理由に、我々との交渉の中でも課題によって難色を示すことや、職場の対応によつては、正規な交渉時間も確保しづらくなるなどの状況も発生している。

私たちは分裂活動のあった江東工場支部を脱退した組合員に次のように示した。私たちは訴えます。

労働者の代表として、当局に昨日まで当局に対してともに闘ってきた仲間を売るような行為が平然とできる彼についていくことの危うさを考えていただきたい。そして傍から二組をみれば組合活動といいながら、その行動は個人の誹謗・中傷ばかりであり、正常な組合とはいえないことを認識され、二組を退会し東京清掃江東工場支部に復帰していただくことを期待します。

この二組対策として東京清掃は組織対策委員会を設置した。そして法的な対抗措置も行っている。工場支部を分裂に導くべきではない。そういう意味で彼らがとった行動は、拙速であり間違っている。我々は一組の目的をもつものとして団結を強く望んでいる。

一組総支部としても二組の組合員に「困難な時の団結こそ必要」と訴え、総支部への復帰に向け、様々な角度から取り組んでいくこととする。

一、一組総支部を強化・発展させるため、国労闘争や地域やごみ集会などの参加について総支部として取り組んでいく。

二、区職労と積極的に交流し、区派遣職員の東京清掃への組織化を目指す。それ

が即座に不可能ならば港工場方式により、一組総支部への結集をはかる。

三、機関会議への参加方法について、無給職免の取得の上限時間については、それぞれについて一時間を加える。

更に支部事情等でこの時間内に収まらない場合は執行委員会の承認を得た上で、この時間数に上乗せできるものとする。支部委員会、大会については支部委員会の承認を得た上で、この時間数に上乗せできるものとする。

四、二組対策については東京清掃本部の組織対策委員会に積極的に意見をあげ、その決定のもとに具体的対策をとるものとする。

また総支部の取り組みとして、二組に属する組合員の意見を聞き必要なる対策を適宜取れるようにする。また緊急に措置が必要な問題が生じた場合には、組織部及び三役で迅速な対応をとるものとする。

教育活動について



教育活動の取り組みは、一組総支部の機関紙を定例的に発行してきた。そして時には臨時号も出し、一組交渉経過など全体に知れ渡るよう情宣を行ってきた。

内容的にも団結を強化するために、趣味的な「コーナー」も設け、組合員の機関紙としての役割も考慮した。また文化スポーツ活動については恒例のボーリング大会や野球大会を行った。野球大会では、組合員が激減する中、区派遣職員も交え、参加してもらい、実に十三チームという大チーム数で闘われ、墨田工場支部が見事優勝した。

清掃の文化体育会がなく、な中で、今後は、一組の中で文化体育活動を育てていく必要がある。よく遊び、よく遊ぶという組合員に魅力を感じさせる労働組合を作り上げることに総支部としても積極的に取り組むこ



ととする。単独の工場を超えた交流を行っていくことにより、併せて一組に未来と希望をもてるような組織とすることに、協力していくこととする。

一、「一組総支部通信」をみんなの機関紙として育て上げ、充実した紙面づくりを行う。

二、みんなのコーナーを組合員の交流のために使用するために、広く記事を募集していく。

三、文化スポーツ活動を積極的に推進し、一組互助会と協力し、文化体育活動を育て活性化していく。以上

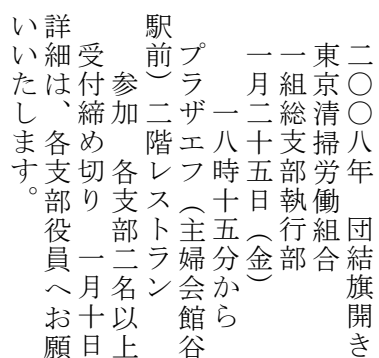
**新企画！
連載**



**企画！
連載**

**八王子市直営事業
戸吹清掃工場**

中央制御室



一組総支部は二〇〇七年十二月二十一日、第三回定期大会を無事に終え、来年度以降の運動方針を確認することができました。

今年を振り返れば、アウトソーシングに始まり、アウトソーシングに終わった年といっても過言ではありませんでした。

我々を苦しめている「経営計画・経営改革プラン」による工場運営は、これから先も、我々について回る事となります。

このような状況の中、「人事育成計画」を確認したことは、将来への人脈へ繋がる大きな成果であると思います。

今後、十年、二十年あるいは三十年、この職場で働こうとする人たちへ、少しでも良い労働条件を残していくため、一組全職場の団結を囲めるため、そして、また、より広い視野で情勢をつかむために、区派遣職員や区議会議員、その他の方々とも話の出来る交流の場として一組総支部団結旗開きを下記により開催します。

年、末年に次ぎ四番目に多い。一方、一九八七年生まれの新成人の人口は百三十五万人で、推計を始めた六八年以降で最も少なかった。子年生まれを男女別に見ると、男性が五百二十一万八千人、女性が五百四十八万人。ベビーブーム世代の四八年生まれが二百二十七万人と最も多く、次いで七二年生まれの百九十九万人、六〇年生まれの百五十四万人となっている。

新成人の人口は、男性が六十九万人、女性が六十六万人。これまで、丙午の六六年に生まれた人が成人した八七年が最も少なかったが、今回はそれを約一万人下回り、二十一年ぶりに過去最少を更新した。

総人口に占める割合でも一、〇六％と、二年連続で過去最低となっている。

子年生まれば、
千六十九万人。
総務省がまと
めた二〇〇八年
一月一日現在の
人口推計による
と、今年のえと
である子年生ま
れの人口は千六
十九万人となつ
た。総人口に占
める割合は八、
四％で、十二支
の中では亥年、
うし、ひつじ丑

都心に飛んでくる花粉は、いったいどこから来るのか。民間気象情報会社のウェザー・サービス（千葉県成田市）とNTTデータが、約一万台のパソコンを使い行ったシミュレーションの結果、東京都西部の奥多摩など比較的近い地域だけでなく静岡県中西部から、かなりの花粉が飛来している可能性が高いことが分かった。

両社は、植生分布をもとに関東近辺にある約一万平方kmのスギ林から飛散する花粉の飛ぶ様子を計算によ

危険注意!

蒸気漏れに気をつけよう!

るシミュレーションで再現しよう」と計画。

しかし、気流や地形などを考慮するため、スーパー飛散経路をシミュレーションしてみたらスーパーコンピュータでも時間がかかる膨大な計算が必要になる。

そこで、このシミュレーションでは、家庭にあるPCの計算能力を提供してくれる賛同者を募り、ネットを介して分担して計算を行う「分散コンピュータティング」という手法を利用。

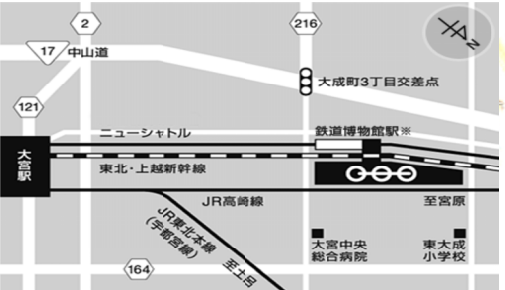
延べ九一九八台のPCが参加し、約四ヶ月で計算を終えた。

その結果、都心には、東京・奥多摩や神奈川・丹沢から飛来する花粉が多いものの、平たんな地形や風向きの関係で、伊豆半島や、静岡県中西部から飛来する花粉が予想以上に多いことが分かった。



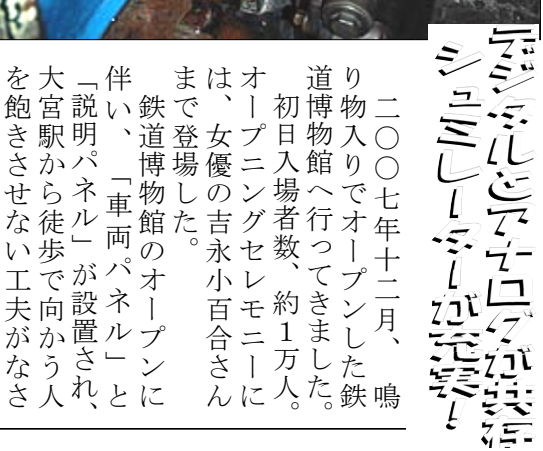
行ってきました！ 大宮新交通博物館

京浜東北線103系運転席



修学旅行列車167系

C62運転席



一般 1,000円
中・高 500円
(3歳以上未就学児) 200円
幼児・小児 100円

埼玉県さいたま市大宮区大成町三丁目四七
〇四八―六五一〇
〇八八―六五一〇
JR大宮駅より
徒歩1分
毎週火曜
十時より一八時

たが、この大宮が、
鉄道の博物館を見学した
後、足を運んでみ
てはどうだろうか。
鉄道博物館によって、
この大宮が、
どのようになつて
いくのか、楽しみで
もある。

二〇〇七年十二月、鳴
り物入りでオープンした鉄
道博物館へ行ってきました。
初日入場者数、約1万人。
オープニングセレモニーに
は、女優の吉永小百合さん
まで登場した。
鉄道博物館のオープンに
伴い、「車両パネル」と
「説明パネル」が設置され、
大宮駅から徒歩で向かう人
を飽きさせない工夫がなさ
れている。
また、SL・電気機関車
が展示されているのも、こ
の通りなので、初めての方
は、大宮駅から徒歩で(約
二十分ほど)鉄道博物館へ
行くのも良いのかもしれない。
他にも、「大宮大成鉄道
村」といった、蒸気機関車
と寝台特急北斗星をイメー
ジした、食事・入浴・宿泊
が出来る施設もオープンし
た。鉄道博物館を見学した
後、足を運んでみ
てはどうだろうか。
鉄道博物館によって、
この大宮が、
どのようになつて
いくのか、楽しみで
もある。

なつかしの五球スーパー

三丁目の夕日に出てくるような、昭和3、40年代のラジオですが、今でもなんとか、がんばってよく聞こえます。AMの音は、なつかしい音源で、耳あたりがよい感じですね。ナショナルとオンキョウの製品です。この他にも、コーワと電音の会社が作っていました。トランスレスのラジオもこの頃、発売されました。



くみこちゃん 福田ゆい



〇-V-1超再生
受信機が近々に完成！
最終段階の調整です。
コイル巻きを行い、
波長計で確認してい
ます。むずかしいで
す。データーが判明
しましたら、巻き数
や、周波数を公開し
ますので、参考にし
てください。

教宣部よりお知らせ
クラブ募集の記事
をお願いします。
ご案内のように、
文厚活動の推進が、
今大会で確認されま
した。
親睦交流の一貫と
して、今後、促進し
ていきますのでよろ
しくお願いいたしま
す。
各支部の出来事や、
趣味、写真、なんでも
お寄せください。
編集者のように、
自慢話でも歓迎です。
各支部委員さんま
でお願いします。

一組総支音障所役員の紹介

現時点で調整中の部分があります

役職名	氏名	支部名	専門部等配置	支部名	正支部委員	副支部委員
1 委員長	岡沢 徹	中央工場				
2 副委員長	箱田 修一	練馬工場	資金部担当			
3 副委員長	内山 健司	江東工場	教宣部担当	江東工場	若濱 恭司	谷中 登
4 副委員長	藤川 勝己	葛飾工場	組織部担当	葛飾工場	牛込 哲也	伊藤 賢
5 副委員長	山下秀男	有明工場	現業部担当	有明工場	大橋 洋一	米倉 康夫
6 書記長	岩田 正隆	杉並工場		杉並工場	中村 光浩	中川 俊一
7 書記次長	中里 保夫	江戸川工場		江戸川工場	寺本 敏樹	富田 文紀
8 会計	武藤 幸治	豊島工場		豊島工場		
9 組織部長	小久保 正	光が丘工場	組織部長	光が丘工場	梁田 真之	
10 資金部長				港 工場	野添 武夫	小林 源吾
11 教宣部長	福田 雄一	練馬工場	教宣部長	練馬工場	加藤 尚英	
12 現業部長	細貝 秀夫	大田工場	現業部長	大田工場	須藤 真之	有波 達也
13 総支部執行委員	西田 久	一組本庁	資金部	一組本庁	板東喜久恵	
14 総支部執行委員	青木 一吉	北 工場	資金部	北 工場	長田博昭	五十嵐直人
15 総支部執行委員	初鹿 雪雄	品川工場	資金部	品川工場	岡本 行正	塩田 修
16 総支部執行委員	奈良 有記	目黒工場	教宣部	目黒工場		甲州 清和
17 総支部執行委員	青木克則	中央工場	教宣部	中央工場	宗形 力夫	
18 総支部執行委員	駒井 貞雄	渋谷工場	教宣部	渋谷工場	斉藤武男	亀田 貴浩
19 総支部執行委員	堀口 孝	千歳工場	組織部	千歳工場	斉藤 健治	山崎 英男
20 総支部執行委員	辻 隆之	豊島工場	組織部	豊島工場	湯本 優	
21 総支部執行委員	小野 純	墨田工場	組織部	墨田工場	菅野裕亮	
22 総支部執行委員	西村 好勝	多摩川工場	現業部	多摩川工場	橋本大介	中村 英光
23 総支部執行委員	小林喜代彦	板橋工場	現業部	板橋工場	内山 陽治	佐藤 康
24 総支部執行委員	金子 隆義	世田谷工場	現業部	世田谷工場	中村 幸夫	
25 総支部執行委員		足立工場				
総支部会計監査	未 定					
総支部会計監査	未 定					

